

令和6年度 長野県 英語教育改善プラン

目標

CAN-DOリストを用いて領域ごとの達成状況を丁寧に把握し、指導と評価の一体化を進める。学級担任等を対象にした研修を実施して言語活動の充実を図り、ALT等と英語で伝え合う教師の姿が児童にとって英語学習者のモデルとなる授業を目指す。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト設定状況の向上。
【設定】
(R4:68.6%⇒R5:76.1%)
- ②児童の英語による言語活動（授業の50%以上）の割合が増加。
(R4:89.4%⇒R5:93.4%)

未だ改善が必要な点

- ①教師の活用は進んでいる一方「児童がデジタル教科書を活用する授業」は、引続き改善の余地がある。
(R5:67.8%)
- ②CAN-DOリスト活用状況については、改善傾向にあるが改善の余地がある。
【公表】
(R4:58.8%⇒R5:59.3%)
【把握】
(R4:33.3%⇒R5:39.9%)

2. 要因分析

- ①②信州英語ルネサンス事業において実施しているモデル校事業が、CAN-DOリスト活用や言語活動を中心に据えた授業の在り方の普及に効果的であったと考える。
モデル校事業では、指導主事が長期的なスパンでモデル校に関わり、CAN-DOリストの見直しから授業づくりに関わる。その成果を下記の機会等で普及。
・モデル校授業公開（参集・秋）
・モデル校の実践発表（オンライン・2月）
・県HPにモデル校のCAN-DOリストを掲載

- ①一斉授業の形式による授業が中心で、児童が最適なツールを選び追究する、適切な場面でのデジタル教科書の活用が進んでいないことが考えられる。
- ②CAN-DOリストを児童と共有することのよさや、活用が授業改善につながることが十分周知されていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②「長野県英語教育フォーラム」（2月）の実施
指導における連携を図るため、小中高の実践事例に学び、異校種間の交流や、CAN-DOリスト等の共有を行う。
- ①②「小学校外国語モデル授業公開」の実施【①②】
参加者が授業参観を通し、児童と英語でやり取りをしながら授業を進める具体的な指導方法について学ぶことができるよう、授業公開を行う。小学校の教員に加え中高の教員も公開授業に参加できるようにする。授業における外部人材の活用についても併せて効果を検証する。
- ①①②小学校教員の専門性向上を図る研修会の実施
・外国語活動・外国語教育充実研修(各事務所、5・6月)
・小学校「外国語活動・外国語」出前講座（7月～2月）
児童用デジタル教科書の活用、CAN-DOリストの活用について
- ①②「小学校英語専科教員研修」（県費対象）【①②】
適切な評価等ができるようになるために、専科教員が配置されている小学校への必要な支援や助言を行っていくとともに、専科教員だけでなく配置校の教職員全体の指導力向上につながるよう支援する。
- ①②①②教育課程研究協議会
教育課程研究協議会において学習者用デジタル教科書の活用について考える機会を設けるとともに、各校の取組事例について情報交換を行う。
- ①②免許法認定講習（英語）の開設
2020年度の採用から、小学校教員の新規採用において、中学校では高等学校英語の免許状を有する者に対して、加点制度を導入。
臨時的任用職員への講習実施の周知を図り、2025年まで一定の英語力を有する教員の採用を促進していく。

令和6年度 長野県 英語教育改善プラン

目標

「目指す姿に到達するための逆算的な単元構想による授業」、「領域統合型の言語活動における適切な指導と評価」を基に、「生徒の英語力の定着を見届けることができるようになること」を目指す。
○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：43.5%⇒R6：50.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語による言語活動（授業の50%以上）を行っている生徒の割合が増加。
（R4:87.7%⇒R5:89.4%）

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、学習到達目標の達成状況の把握が改善。
（公表 R4:50.3%⇒R5:65.6%）
（把握 R4:76.2%⇒R5:82.0%）

未だ改善が必要な点

① CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合について引き続き改善の余地がある。
（R4:46.2%⇒R5:43.5%）

② R5全国学力・学習状況調査の結果から、特に「書くこと」について、課題が見られる。
（全国:23.4%、長野県:19.4%）おび

2. 要因分析

① 左記現状の①・②が連動し、向上していると推測される。小学校で行われているSmall Talkが小中連携の要の言語活動の一つとして常活動等で定着していることが考えられる。

② モデル校事業や研修等で、言語活動を授業の中心に据えることを継続して普及してきたことで、教師の英語使用状況も向上したと考えられる。

① 生徒の英語力に加え、教師がCAN-DOリストを基にして、学習到達目標の達成状況の把握をすることに課題があると考ええる。

② 9(2)のメールの英文を依頼する表現に書き換える問題について、全国との差が大きかった。依頼する表現の理解や、「相手の行動を促す」という言語の働きの理解ができていないことが原因と考える。ある表現等を重点的に学習している時は表現できても、文脈や状況からどの表現等を用いればよいかが判断できていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②「長野県英語教育フォーラム」（2月）の実施
指導における連携を図るため、異校種間の交流や、実践事例やCAN-DOリスト等の共有を行う。指導における小中高の教員を対象に実施。

①②①②「中学校外国語モデル授業公開」の実施
CAN-DOリストを基にした学習到達目標の明確な把握をテーマとし、モデル授業を公開したり、その取組を研修で発表、紹介したりする。円滑な小中高の接続を図るため、小・高の教員も公開授業に参加できるようにする。モデル校はディスカッション等の言語活動にも取り組み、言語活動の高度化に向け、高校の教員からの知見を得る機会とする。

①「児童生徒の英語力向上支援事業」（R6～）の推進
・1日海外留学疑似体験（年2回）
・English Camp（年1回）
英語が好きで興味・関心をもつ中学生が、これまで学校で学んできた英語を活用したり、新しいことを英語で学んだりすることができるプログラムに参加し、グローバルな世界を体験することで、英語学習への意欲を高める。

①②①②教育課程研究協議会
各校での授業改善等を促すため、全県の中学校の英語科教員が出席する教育課程研究協議会において単元構想や単元末での評価（パフォーマンステスト）とCAN-DOリストを有機的に結び付けている例や生徒用デジタル教科書の活用事例等を共有する。

令和6年度 長野県 英語教育改善プラン

目標

授業において観点別学習状況の評価及び統合的な言語活動の充実を図り、生徒の英語力を適切に把握する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 51.1%、B1以上 21.2%⇒R6 : A2以上 54%、B1以上 25%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 英語による言語活動（授業の50%以上）を行っている生徒の割合が増加。
(R4:59.2%⇒R5:66.8%)
- ② 英語担当教師の英語使用状況（発話の50%以上）が改善。
(R4:41.4%⇒R5:48.2%)
- ③ CAN-DOリストの活用状況が改善。
(把握 R4:67.7%⇒R5:92.7%)

未だ改善が必要な点

- ① 生徒の英語力（CEFR A2レベル相当以上）は改善傾向にあるが、引き続き改善の余地がある。
(R4:50.3%⇒R5:51.1%)
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定した効果的な言語活動の取組について、引き続き改善の余地がある。

2. 要因分析

- ①② 授業研修会を普通科、英語・国際学科、専門学科それぞれで実施し、生徒の英語力に応じた言語活動の実践例及び教師の英語使用のモデルを示したことにより、授業中の言語活動の割合及び教師の英語使用状況が改善。
- ③ 各校におけるCAN-DOリストの活用状況を把握するとともに、管理職研修や教育課程研究協議会において、CAN-DOリストの意義と活用についての説明を実施したことで、CAN-DOリストの活用状況が改善。
- ① 生徒の英語力について、統合的な言語活動への取組及び指導と評価の一体化の具体的な内容の周知が十分でないことが要因と考えられる。
- ② 言語活動とは何かについて、具体的な実践方法の周知が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③ 指導と評価の一体化の推進
CAN-DOリストを年間指導計画及び単元構想に適切に反映した指導に資するため、英語指導力アップスキル授業研修会（通年・県内4地区）及び小中高連携による「長野県英語教育フォーラム」（2月）にて、4技能5領域のバランスの取れた指導を意識し、特に「話すこと」において、やり取りや即興性のある言語活動を扱う機会をより多く確保するための工夫について助言を行う。生徒の英語力に応じた教師の適切な英語使用についても引き続き周知する。
- ①② 言語活動の充実
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを適切に設定して行う言語活動の充実のため、アップスキル授業研修会（通年）及び教育課程研究協議会（9月、県内4地区）にて、統合的な言語活動及び必然性のあるコミュニケーションが促されるような指導の工夫について紹介するとともに、各校の取組事例について情報交換を行う。

長野県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	51.1	54		56		58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	21.2	25		25		25		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	66.8	68		70		72		74	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		68	81.0	83		85		87		89	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	94.8	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	80	92.7	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		90	92.1	92.2		92.2		92.2		92.2	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	48.2	50		60		70		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	43.5	50		53		56		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	89.4	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	75	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	65.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	82	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	45	50		52		54		56	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	84.5	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	75	76.1	80		82		84		86	
		公表（％）	75	39.9	75		75		77		80	
		達成状況の把握（％）	75	59.3	75		75		77		80	